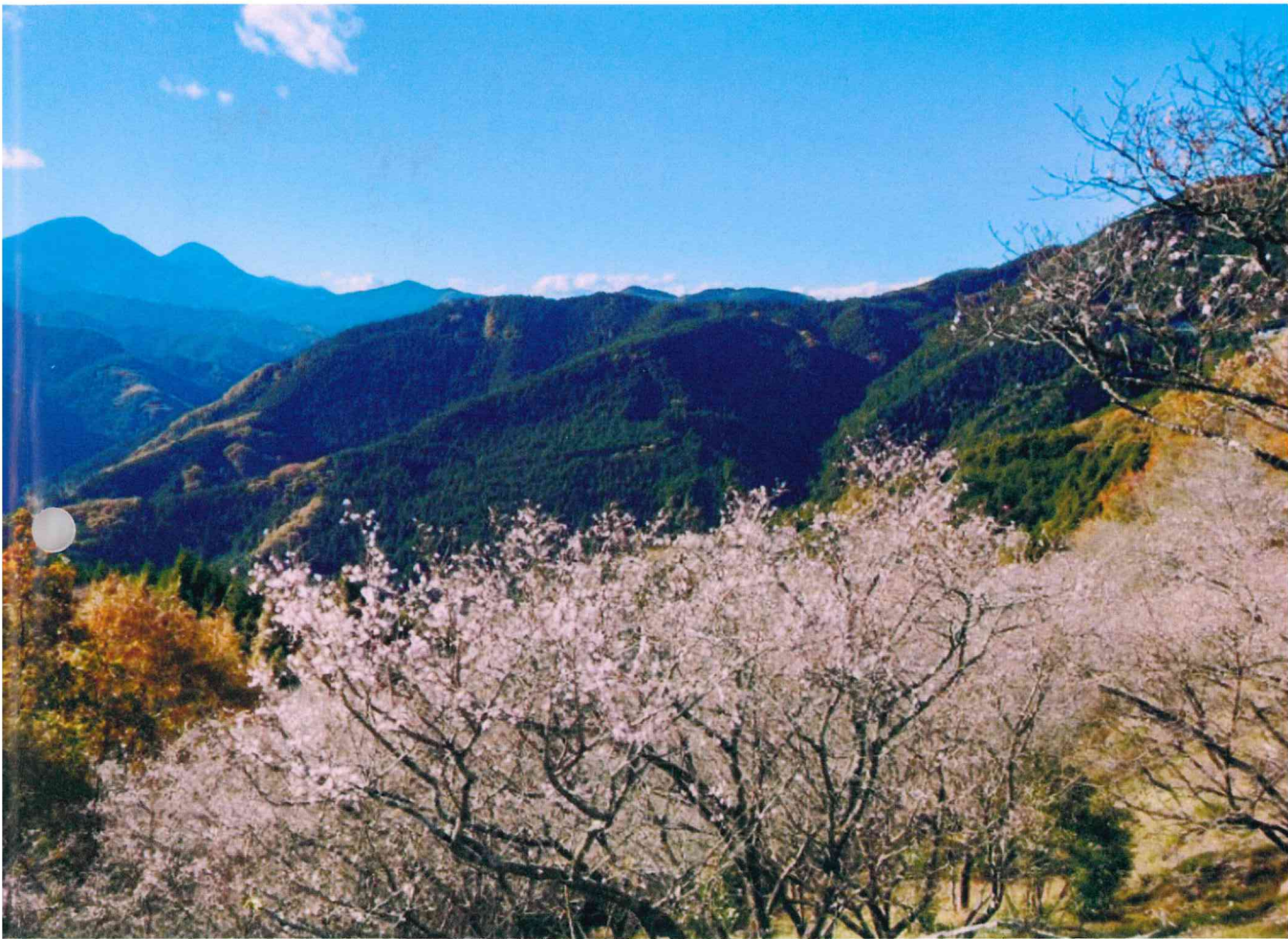




埼玉県医師会誌

就任挨拶

埼玉県医師会 理事 松本 郷、川嶋 賢司



2025
December
Vol.909 **12**

フォトサロン

真如堂	吉川松伏医師会	三宅政房
東京駅のイルミネーション	さいたま市与野医師会	森田ひかり
東京の空の風物詩	浦和医師会	大島誠一
師走の古墳公園と行田タワー（行田市）	行田市医師会	河本英敏
冬桜を愛でる老夫婦 桜山公園で（群馬県藤岡市）	埼玉医科大学医師会	片山茂裕
ヒメツルソバ【埼玉県本庄市】、寒雀【埼玉県寄居町】	深谷寄居医師会	五十嵐勇人

就任挨拶

埼玉県医師会理事就任のご挨拶	埼玉県医師会理事	松本郷	… 1
理事に就任して	埼玉県医師会理事	川嶋賢司	… 2

報告 I

令和7年度 女性医師懇談会の報告	埼玉県医師会理事	竹並麗	… 3
------------------	----------	-----	-----

談話室

Der Weg ist das Ziel 道のりこそ目的そのものである	春日部市医師会	木村理	… 8
天才あゆみ論 —なぜ行列ができるのか—	春日部市医師会	木村理	… 9
クイズは楽し！ Ver.127	深谷寄居医師会	緒方伸男	… 12
夜はジャズとコーヒーでダラダラ	深谷寄居医師会	小暮太郎	… 13
帰ってきた初心者のための歌舞伎講座 番外編・映画『国宝』	上尾市医師会	関根威	… 17
ヒトは人工知能と共存できるのか？	朝霞地区医師会	飯田惣授	… 20

埼玉いい店・好きな店

熟成肉のHOUSE 小手指店	所沢市医師会	齋藤拓郎	… 23
----------------	--------	------	------

臨床メモ

早期乳がんに対するラジオ波焼灼療法が保険適用になりました！	乳腺レディースクリニック越谷（越谷市医師会）	院長 石綱一央	… 25
泌尿器科感染症の実地診療	桂水会 岡病院（本庄市児玉郡医師会）	岡大祐	… 27

お知らせ

患者さんのための3つの宣言	埼玉県、埼玉県医師会	… 30
日本医師会員向け キャッシュレスサービス	日本医師会 ORCA 管理機構	… 32
令和7年度 埼玉県がん検診セミナー	がん検診医会	… 34
ちゃんとチェック！最低賃金	厚生労働省	… 40
令和8年度「産業医学調査研究助成」募集要項	公益財団法人 産業医学振興財団	… 41

日医講座開催案内

学術担当	… 42
------	------

会議記録

第6回理事会、第22回常任理事会、第23回常任理事会（持廻り）、 第24回常任理事会、第25回常任理事会、第6回郡市医師会会長議	総務担当	… 43
---	------	------

会員の動き

郡市医師会別承認済会員統計表、訃報、日誌	総務担当	… 52
----------------------	------	------

医師会誌投稿規定

広報担当	… 63
------	------

保険診療についてのQ&A

医療保険担当	… 73
--------	------

お気軽に会誌へのご感想・ご意見をお寄せ下さい

広報担当	… 77
------	------

編集後記

会誌編集委員会委員 森 庸祐	… 80
----------------	------

Der Weg ist das Ziel 道のりこそ目的そのものである

春日部市医師会 木村 ^{わたる}理



ドイツの成語に“Der Weg ist das Ziel!”（道のりこそ目的そのものである）という言葉がある。初めてこの言葉をドイツ語の教科書で目にしたとき、心に深く残り、離れなくなった。

何か本質的な意味を含んでいるように感じられ、その解釈について思いつくままに書きとめてきたものを、ここにまとめてみたい。

1. 外科手術と「道のり」の意味

この言葉は、外科医にこそふさわしいと感じた。開腹手術は、術者と助手（前立ち）との対話であり、両者が同じ外科解剖と剥離のイメージを共有し、確認しながら進める作業である。その「確認の過程」こそが手術の本質といえる。

たとえば臍頭十二指腸切除術のような大手術においても、単に「臍臓癌を切除すること」が目的ではない。正しい解剖を確認し、正しい層で剥離し、血管を結紮・切離し、糸結びを正確に行う——その一つひとつの行為がすべて目的である。それらの小さな目的の積み重ねが最終的な到達点となる。つまり、手段ではなく、すべてが目的そのものなのである。

したがって「道のりこそ目的である」という言葉は、まさに開腹手術に最もよく当てはまる。手術の過程一つひとつが目的であり、それらの集合体として最終の成果が生まれる。手段と目

的を明確に分けることはできず、両者はグラデーションのように溶け合っているのだ。

2. 生と死のあいだに

この考え方は、人生全体にも通じる。

夏目漱石が「生きることこそ、人間たった一つの目的である」と述べた心境も、まさにこれに近い。「毎日生きていること」そのものが、人生の目的である。

医師として、多くの患者さんが死を迎える場面に立ち会ってきた。死を意識する彼らの声に耳を傾けるたびに、私たちが生きる意味を考えさせられる。死を目前にしたとき、人が求めるのは豪華な旅や贅沢ではなく、平凡な日常をもう一度味わうことだ。

だからこそ大切なのは、「今をどう生きるか」である。死を恐れる前に、今を全力で生きること。——それが人生の目的であり、「道のりこそ目的」という真意なのだ。

3. 日常のなかの目的

子どもを産み、育てることに追われて気づけば年月が過ぎていた——そんな女性は多い。しかし振り返れば、その日々こそが人生の目的であり、最も幸せな時期だったのだと思う。親が働く姿や生きる姿を子どもに見せることは、まさに「生きる道のり」を示すことである。

たまたま出会ったドイツ語の一言から、私は長いあいだ考え続けてきた。「生まれてきたこと、生きていること」という宿命の中で、日々を生きること（道のり）こそ、人生の目的である——そう考えたい。

天才あゆみ論 —なぜ行列ができるのか—

春日部市医師会 木村 理^{わたる}

1. プロローグ

2020年1月16日、我が国で初めてCOVID-19感染症が確認された。その直後から、春日部市の「あゆみクリニック」は“行列のできる新型コロナ対応クリニック”として、全国放送のテレビ番組でたびたび紹介されるようになった。庭にプレハブの隔離外来を設置し、PPE（Personal Protection Equipment：个人防护具）を装着して診察にあたる院長の姿は、何度も報道された。2025年9月現在、放映回数はすでに75回を超えている（継続性）。

同院では土日を問わず、徹底してコロナ診療を続けてきた（努力）。驚くべきことに、2002年のSARS（重症急性呼吸器症候群）、2009年の新型インフルエンザ（H1N1）、2012年のMERS（中東呼吸器症候群）の際にも、PPEなどの装備を早期に準備し、感染拡大防止に尽力していたという。

こうした「力が入った診療」を行っている人の姿勢は、周囲にはすぐ伝わる。行列を作る患者たちはそれを感じ取り、さらにそれを報道しようとするテレビ関係者も理解している。人は人を見抜くのだ。そして、あゆみクリニック院長・藤川万規子先生（以下「あゆみ先生」）は今も関東地方を代表する感染症クリニックの医師として輝き続けている。

当院でも「庭に隔離室を作って患者を診よう」という意見が何度か出た。当時、賛同したのは中屋豊名誉院長であった。内科系栄養学や日本糖尿病学会でも名を馳せた名医である。退職後3年たった今も、そのポートレートは何人かの職員の机の上に飾られている。しかし私は、来院する多くの患者さんを管理するイメージに対してヘソに力が入らず、また診療科によるコロナ感染症に対する意識の温度差が埋まらないこともあって、病院長として一步を踏み出せなかった。

2. 特徴

何が違うのだろうか。決断力、行動力、頭脳の明晰さ、言語化の力、そして反射神経——。

ある日の夕方、診療後に当院へ回診に来られた際、その印象は一言、「聞き上手」であった。自らの意見や結論は最後に述べ、まず患者の話を遮らずに聴く（聴く力）。

私などは、話を聞いていると自分の言うことを忘れてしまうため、つい途中で口を挟んでしまう。記憶力の問題かもしれないし、あるいは「男性」の特徴かもしれない。

最も大切なのは、患者の訴えを丁寧に聞き、その気持ちに寄り添う医療を行うことだ。そして、その裏づけには確かなエビデンスがあり、状況を即座に判断できる冷静な思考力がある。正確な知識と研ぎ澄まされた臨床能力が根底にあるのだ。

ある時、入院患者の訴えを知人経由で耳にしたあゆみ先生は、直ちにその患者を診に来られた。その患者は数日後に亡くなられたが、安らかな表情で最期を迎えた。その対応には「診る

意志」があった。

会話の中で印象的だったのは、「コロナ患者に電話だけで対応するのは違和感がある」「看護師はPPEを着て対面で向き合っている」「臨床は患者と顔を合わせて話すことから始まる」「家族構成を含め、すべてを理解してこそ医療情報になる」という言葉である。

以来、私も必ず病室でコロナ患者と対面し、直接言葉を交わすようにしている。

あゆみ先生の言葉――

「患者さんの身になって、自分の家族のように、お父さんやおじいさんのように接しています。」

3. 天才の自信

埼玉県医師会誌8月号のスペイン旅行記でも、あゆみ先生は「歴史から未来を学ぶ」と言い切り、ピカソの《ゲルニカ》から受けた衝撃を綴っていた。上野の近代美術館にも《ゲルニカ》は展示されており、私は最近でも数回訪れ、また若いころスペインのプラド美術館でそれを実際に見たのだが、私の琴線にはそこまで触れなかった。彼女の感受性は、やはり際立っている。

あゆみ先生のすごさは、文章に屈託がなく、自分の感じたことを率直に表現する点にある。目立つことや批判を恐れず、歪みのない感性でのびやかに語る。これこそが天才の自信であり、天賦の才能なのだろう。

現在も百日咳やパラインフルエンザなどの取材で、ニュースやワイドショーなどに登場している。もはやテレビ局は感染症を知りたいというより、あゆみ先生自身を「見たい」「聞きたい」と思っているのではないか。

つまり、あゆみ先生は医師でありながら、すでに一種の“タレント”なのである。

4. 同僚たちの高評価

睡眠時間は4時間ほどで足りるという。まるでナポレオンのようなものである。予定通りに行動し、頭の中で常に計画を立てている。体力があることは天才の条件の一つだ。「春日部の母」と呼ばれているのも、体力と知力を兼ね備えているからだろう。

医師会の同僚たちの評価も高い。少し冗談を言おうとすると、「この先生はテレビによく出ている、とても優秀な方ですよ」と必ず釘を刺される。うっかり軽口を叩けない存在――それほどまでに高い位置に立つ医師として、皆に認められているのである。

5. エピローグ

本稿に異論を持つ方もおられるだろう。最後に、芥川龍之介『侏儒の言葉』から引用して締めくくりたい。

「天才とは、わずかに我々と一步を隔てたもののことである。

同時代は常にこの一步の千里であることを理解しない。

後代はまた、この千里の一步であることに盲目である。

同時代はそのため天才を殺した。後代はまたそのため天才の前に香を焚いている。」

我々はこの文章の中に示された特性――

継続性・努力・決断力・行動力・頭脳の明晰さ・

言語化能力・聴く力・寄り添う医療・判断力・
知識・研ぎ澄まされた臨床能力・診る意志・自信・
屈託のない自己表現・タレント性・体力

——を見つめ直さねばならない。

そして、我々との間を隔てるこの「一步」が、
実は千里もの差であることを理解する必要がある。
少なくとも、この一步に近づこうとする努力を怠ってはならない。

公式メーリングリスト（MAN）加入のおすすめ

埼玉県医師会では、会員を対象に本会会務情報などについて、電子メールを利用した公式メーリングリスト（MAN）※を開設しております。※配信のみで会員からの送信はできません。

登録を希望される方は、下記の埼玉県医師会代表メールに

- ・所属都市医師会名
- ・会員氏名
- ・所属医療機関名
- ・メールアドレス（送信いただいたメールアドレス以外を希望される場合）

を記載いただき、送信ください。

登録が済みましたら、登録完了メールが届きますので、ご確認をおねがいします。

□埼玉県医師会代表メール：info@office.saitama.med.or.jp

【現在の主な配信内容】

- ・埼玉FAXニュース（管理課総務担当）／月1回～3回

光陰矢の如し、とは申しますが気づけばはや師走。歳を経るごとに1年が過ぎるスピードが速くなっていく気がします。これを『ジャンネの法則』と言うそうです。生涯のある時期における時間の心理的長さは年齢に反比例する（例えば60歳の人間にとって1年の長さは人生の60分の1であるが、6歳の人間にとっては6分の1であり、主観的に感じる年月の長さは歳をとるほど短くなる、つまり時間が早く過ぎると感じる）という時間観念に関する法則のひとつです。異論も多い説ですが、個人的には「なるほどなあ」と合点しました。

2025年は皆さまにとってどんな年だったでしょうか？ 1月に八潮で起きた道路陥没事故は衝撃でした。2、3月には岩手、愛媛、岡山の山林火災、6月からのトカラ列島群発地震では悪石島から島外避難が実施されました。また記録的猛暑でしたね。8月には伊勢崎市で41.8℃と日本歴代最高気温を記録しています（おかげさまで我が熊谷市は5指にも入らない涼しい街？になりました）。そして熊や猪による獣害……。イヤな出来事は記憶に残りやすいのでしょうか。こんな時事ばかり思い出されます。

ボク自身は1350年ぶりに地球に接近したC-2025 A6、通称レモン彗星を観られたことに感激した年でした。だって前に見えた時は飛鳥時代、壬申の乱とかあったあたりですよ？ 3～4等星くらいの明るさなので、光害の無かった当時は肉眼で見えた事でしょう。大海人皇子や額田王も目にしたかもしれない彗星をいま観

た、それを考えると連綿と紡がれた歴史の先っちょに自分がいることを実感します。次回の接近はなんと1150年後。宇宙の壮大な時間スケールから考えたらジャンネの法則なんて滄海の一粟ですね。その頃の医療はどうなっているのでしょうか？ 埼玉県医師会誌は続いているのでしょうか？ 想像もできないことを考えるとクシャミが出そうになります。



C-2025 A6(レモン彗星) 2025.11.03 Photo by Yosuke Mori

会員の皆さま、よき新年をお迎えください。そして、令和八年丙午も埼玉県医師会誌をよろしく願います。鋭意ご投稿お待ちしております。(森)

● 編集委員 ●

水谷	元雄	松山	眞記子	森野	一英
石井	暁	佐野	仁彦	加藤	雄一
森	庸祐	吉田	好志郎	岩崎	智彦
西	秀夫	田原	泰久		

【表紙写真説明】

桜山公園の冬桜

群馬県藤岡市にある桜山公園、春と冬に二回桜が咲きます。山全体に桜の木があり、ほんのりピンク色の山になります。

深谷寄居医師会 定森 真理

■DATA■ 撮影条件：Au SONY Xperia 5G

Vol. 909

DECEMBER, 2025

定価500円

発行：令和7年12月10日

発行人：一般社団法人 埼玉県医師会

会長

金井 忠男

編集人：一般社団法人 埼玉県医師会

常任理事

松山眞記子

発行所：一般社団法人 埼玉県医師会

〒330-0062

さいたま市浦和区仲町3丁目5番1号

電話 048-824-2611 (代表)

印刷所：誠美堂印刷株式会社

〒338-0007

さいたま市中央区円阿弥6-3-3

電話 048-855-5321